

## 第 5 回文化芸術推進計画策定委員会 意見の概要 (R1. 7. 4 開催)

### 1. スケジュールについて

- ・第 2 回市民ワークショップとパブリック・コメントの時期が重複している。  
※策定委員会時、パブリック・コメントの開始を 11 月中旬としていた。  
→パブリック・コメントの開始を第 2 回ワークショップの後に修正する。
- ・パブリック・コメント後の会議で、計画内容についての修正意見が出ないようスケジュールに示す必要がある。
- ・(ほぼ計画内容が固まってから開催される) 第 2 回市民ワークショップの意見の取扱いについて、出された意見の計画への反映のほか、文化芸術に対する気運の醸成といった目的があることを明確に参加者に示す必要がある。
- ・第 1 回市民ワークショップのテーマが「諏訪原城跡の利活用」で、第 2 回が「市内地域資源の利活用」(第 5 回ワーキングでは「未定」) となっているが、検討の順番が逆ではないか。  
→コーディネーターする相模女子大の教授に相談して意見の出しやすいテーマから始めることとした。
- ・諏訪原城跡をテーマにした時、無作為抽出で選ばれた市民の中には、諏訪原城跡を知らない人もいるのではないかと懸念される。  
→諏訪原城跡を見学し、説明を受けてからのワークショップを行うことで、諏訪原城跡を知らない人も意見を出しやすいように工夫している。この点を踏まえて参加者募集の案内を行う。

### 2. 施策の体系について

- ・基本理念の下にある 4 つのキーワード(まもる、はぐくむ、つくりだす、つなげる)の色と施策の柱のアンダーラインの色がリンクしているのか?  
※策定委員会では施策の柱ごと、10 色を使用していた。  
→リンクしていないので、色の表示方法を変える。施策の柱のアンダーラインの色に、4 つの関連するキーワードの色を反映させる。
- ・今年の資料と比べると、キーワード「まもる」の位置が 3 番面になっている。  
※策定委員会時、はぐくむ、つくりだす、まもる、つなげるの順番であった。  
→6 月 21 日ワーキングの「推進計画」であること、活用を重視した計画であるという意見を反映して、「まもる」を 3 番目とした経緯を説明。  
→保存あつての活用であり、身近にあるものを大切にすることも重要。  
計画策定の背景に高齢化などによる活動維持が困難になってきているなどの問題がある。

- 「まもる」の位置を一番左に戻す。
- ・協議会の意見の概要で、「施策の柱が多すぎる」という意見の意味は？
  - 協議会で配布した資料では柱が12あった。協議会の意見を受け、策定委員会では柱を10に整理した。
- ・昨年の論議で4つのキーワード「まもる」「はぐくむ」「つくりだす」「つなげる」は並列だったが、今回の概念図では「つなげる」の上に他の3つがのっている。
  - ※策定委員会で提示した概念図は、円柱の上の部分をつなげるとし、その上にまもる、はぐくむ、つくりだすの丸を乗せていた。
  - 「つなげる」はそれ自体の持つ意味のほかに、他の3つのキーワードをつなげるという役割ももっているので、表示を分けた。
  - 未来につなげる、という意味で重要である。4つのキーワードを並列で表記する。
- ・概念図の6つの関連分野は、法律の表記の順に左側から並べたい。
  - ※策定委員会で提示した概念図では左から、産業、教育、福祉、国際交流、まちづくり、観光の順になっていた。
- ・施策の体系の中で、「デジタルマーケティング」を表現してほしい。

### 3. その他

- ・6月20日協議会の意見の概要資料にある「インタープリター」という言葉について、「文化の伝達者」という意味もある。
  - 意見の概要資料に記載する。